

■ 各種ホースの定期交換について

Japan
Scuba
Association

日本スクーバ協会
2010年12月1日

私共、日本スクーバ協会はユーザー様ご購入後2年から5年以内に定期的にホースを交換される事を強くお勧め致します。また、下記のホースの『危険兆候』が見られた場合は、ご購入後の年数に関わらず必ずホースを交換されてからダイビングされる事を重ねてお願い申し上げます。



【ホースの経年劣化及び危険兆候一覧】

- ホース表面にしわ、亀裂、ひびわれ、ささくれ、などが見られる。
- 内部補強材が露出している。
- かしめ金属部に変形やクラックが見られる。
- かしめ金属部に緑錆や赤錆が見られる。
- 継続的な気体漏れが見られる。(ただし、スパイキングホールからの微細なものは正常です。)
- 圧縮ガスを通した加圧時に膨らみが見られる。
- ネジ溝の消耗が見られる。(オスネジ部及び袋ナット内側部)
- ネジ部(オスネジ部及び袋ナット内側部)に緑錆や赤錆が見られる。
- 使用中に極端な負荷がかかった場合。(車に踏まれた、エントリー時に船等に引っ掛かった。)
- BCやドライスーツ用ホースについてはカブラー部分の塩分や砂等の除去を行い潤滑しても作動が不良である。

最低でも1年に1回は上記危険兆候がホースに現れていないか慎重にご確認下さい。当協会では、毎回のダイビング前にユーザー様自身による危険兆候の確認をお勧め致します。

当協会は、各種ホースをダイビング器材の構成部品の中でも、大変重要なパーツの一つであると考えております。法律で定められている訳ではありませんが、ダイバーの皆様の安全確保のために、定期的な交換と危険兆候をご理解頂きたいと思っております。

当協会が推奨する交換時期は一般的な指標です。メーカーによりましては、もっと短い交換時期を定めているところもございます。つきましては、ユーザー様ご本人でご自分の器材及びホースがどこの製品であるかを把握されて、そのメーカーの推奨交換時期を正しく確認される事が最も重要です。

また、中古品を入手された場合は過去にどのような負荷がホースにかかったのか外観では判らない場合がほとんどです。万が一中古品をご購入になられた場合は、器材のオーバーホールと同時にホースは全て新品交換されてからダイビングされる事を強くお勧め致します。

ダイビングは素晴らしいレジャーですが、ご使用される器材に皆様の大切な生命を預ける行為でもあります。

海を愛する皆様には安全な器材で末永く、スクーバダイビングを楽しんで頂きたいと思っております。

【ホースの経年劣化及び危険兆候参考例】

- 01 ホース表面にしわ、亀裂、ひびわれ、ささくれ、などが見られる。



- 02 内部補強材が露出している。



- 03 かしめ金属部に变形やクラックが見られる。



- 04 かしめ金属部に緑錆や赤錆が見られる。



- 05 継続的な気体漏れが見られる。(ただし、スパイクキングホールからの微細なものは正常です。)



- 06 圧縮ガスを通した加圧時に膨らみが見られる。



- 07 ネジ溝の消耗が見られる。(オスネジ部及び袋ナット内側部)

- 08 ネジ部(オスネジ部及び袋ナット内側部)に緑錆や赤錆が見られる。



- 09 使用中に極端な負荷がかかった場合。(車に踏まれた、エントリー時に船等に引っ掛かった。)

- 10 BCやドライスーツ用ホースについてはカプラー部分の塩分や砂等の除去を行い潤滑しても作動が不良である。